

耐火Q-07

準耐火構造

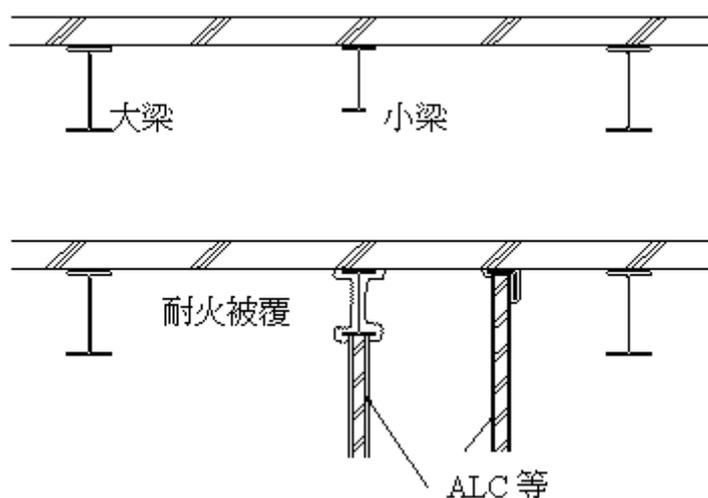
防火区画

耐火被覆

準耐火構造の建物で防火区画が必要な場合、デッキ合成スラブでは鉄骨梁に耐火被覆が要求される場合がありますが、デッキ合成スラブの耐火認定ではデッキ合成スラブと梁とは耐火被覆が複合耐火仕様になっているからですか？

耐火 A-07

準耐火構造などで、床スラブを耐火水平区画とする場合、下図（上）の納まりでは鉄骨梁に耐火被覆は必要ありませんが、下図（下）のように鉄骨梁下に防火垂直区画がつながる場合は、この交差部の鉄骨梁は、防火区画性能が必要となりますので鉄骨梁に耐火被覆が必要です。



デッキ合成スラブの無被覆耐火構造認定は、耐火構造の建物床を想定して耐火試験を実施し、耐火認定を取得しましたので、耐火標準仕様書の中の構造説明には、鉄骨梁に耐火被覆を施したものが描かれ、鉄骨梁とデッキ合成スラブとが複合耐火仕様になった感じを与えています。

しかし、付帯条件として「梁の耐火被覆（梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じた耐火被覆を施す）」と明記されており、梁には要求耐火時間に応じた耐火被覆が必要になります。

すなわち、耐火構造の法体系上は床スラブと梁は別もので、梁の耐火性能に関係なくデッキ合成スラブは床構造として、1時間または2時間の耐火性能が有するということです。